

表紙「水源の保全に向けて」＜現在のページ＞

[琵琶湖の保全と水管理機構の再編](#)

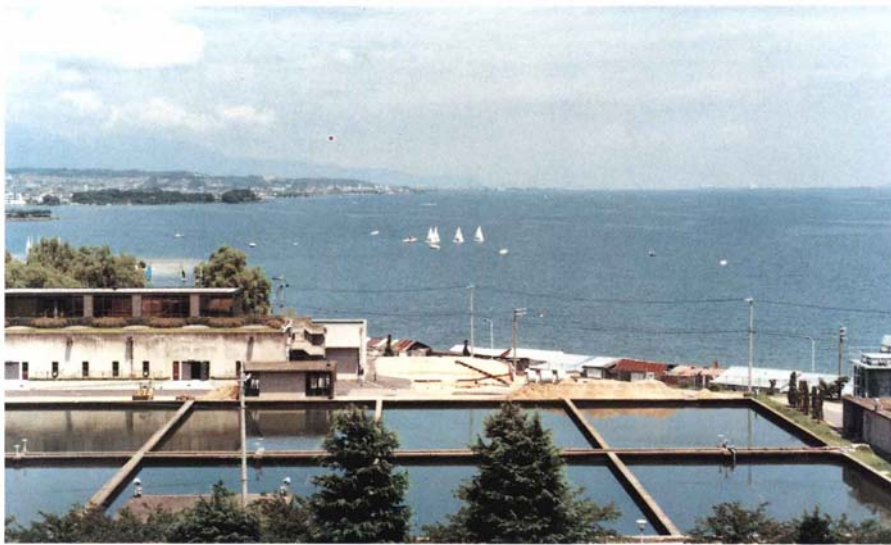
[湖岸景観の保全 — 大阪経済法科大学 小林 博](#)

[びわ湖の風景 — 京都芸術短期大学 武居 二郎](#)

[お知らせ](#)

[世界の湖\(20\) — ウィンダーミア湖\(イギリス\)](#)

## 水源の保全に向けて



琵琶湖の水を水源とする大津市柳ヶ崎浄水場



県南部用水供給事業吉川浄水場  
(中主町地先より湖水をとり入れる)

水の使用量がふえ、琵琶湖への依存が増してきました。そこで、水を合理的に利用する節水型社会の形成にむけて、さまざまな工夫をこらす必要が生じています。

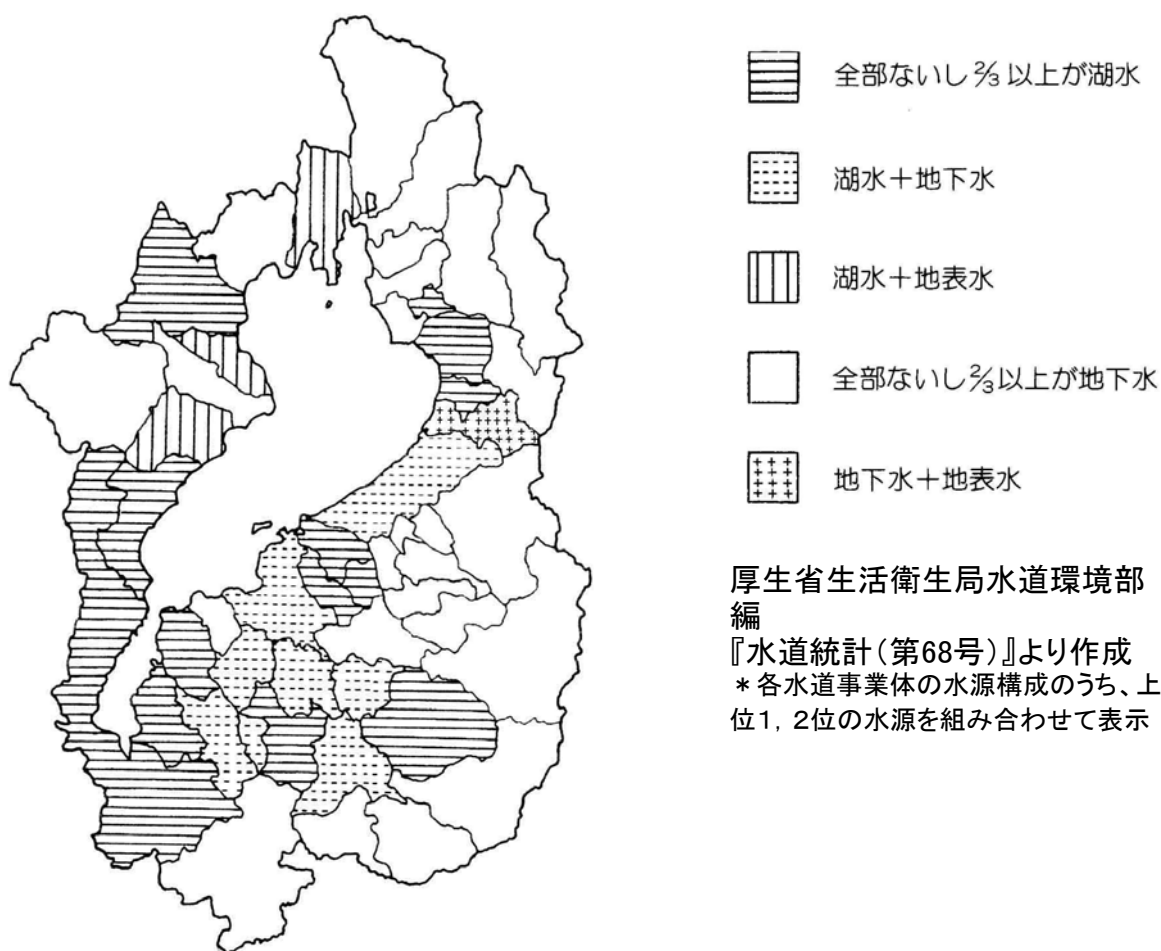
# 琵琶湖の保全と水管理機構の再編

## 水源の変化

滋賀県下の水道は昭和61年度に97.5%の普及率となっており、ほとんどの地域に行き渡っています。この水源内訳をみると、60%近くが琵琶湖の水に依存しています。昭和50年度には湖水への依存は38%弱でしたから、それ以降の水需要の増加はほとんど湖水によってまかなわれているといえそうです。

かつては、井戸や用水路など手近なところに求めていた水源がだんだん琵琶湖に集中するようになると、滋賀県の各地に住む人々は、生活環境の地域的差異をこえて水源を共有するようになってきました。

昭和60年度に実施した調査によれば、今後、湖水への依存を大きくしたいと考える事業者が10市町あります。また、県が行う用水供給事業は水源の大半を湖水に依存していますが、この県営水道からの受水を拡大したいと考える事業者は9市町にのぼっています。そのため、今後もし水需要が増加していくと、湖水への依存はそれだけ増えていくことになります。



水道事業者の水源(取水量ベース) 昭和60年度

## 望ましい水管理へ

琵琶湖の集水域で使った水は、やがて琵琶湖に集まりますから、水使用量の増加は汚濁負荷を増加させる大きい要因となります。そこで、個人や家庭、事業所などさまざまな主体が工夫して節水を図り、水の単位量当たり使用効率を上げていくことは、結局私たちの水源を保全することにつながっていきます。

都市化の進展や生活様式の変化によって、かつての水利用とは異なった状況も生み出されて

いますので、こうした動きに対応して、コミュニティや市町村さらには流域などそれぞれのレベルにふさわしい水管理のあり方を考えていくことが今後の大きい課題となっています。

## 湖岸景観の保全

大阪経済法科大学 小林 博

近江は周囲を山々で囲まれ、中央に琵琶湖をもつ、いわば山紫水明の盆地である。ここではその水明を代表する湖岸景観が明治以降どのように変わったか、また景観保全上どんな問題が考えられるかについてみることにする。

### <湖岸景観の変化>

- (1) 道路の改修 : 新設は、自然景観が卓越していた湖岸をまず変えたもので、それは明治14年、西近江路北小松の鎧岩開削に始まり、おもに大正・昭和前期に、湖北の岩石湖岸でみられた。木之本―塩津―海津間の新道開設がそれで、湖北の沈水湖岸景観(月出峠の眺望、海津大崎の勝景)が身近なものとなった。
- (2) 工場の湖岸進出 : 大正後半から昭和初期にかけて紡績、レーヨン工場が彦根、長浜、大津、堅田の湖岸に建設された。これは新しい近代景観の出現として注目される。
- (3) 内湖の干拓 : 戦中、戦後期にかけて湖辺全域で行われた。実施は第1期淀川河水統制事業計画により昭和19年松原内湖からなされ、同46年まで、計15湖、面積にして2,521haが干拓された。このため入江がなくなり、葦が減り、湖岸景観が単調化した。湖岸線は塩津内湖としゃば内湖で約1.4km、津田内湖で3.8km、貴川内湖で2km短くなった。
- (4) 湖岸の埋立 : 埋立は明治13年逢坂山トンネルの掘削土で扇屋関を埋立てたのが最初であるが、大規模化したのは昭和30年代後半からで、大津市は昭和33~46年に計60.2haを造成した。また県も戦前、尾花川、別所を埋立て、戦後は県開発公社が瀬田浦、木の浜、比叡辻、彦根松原の計170.7haを埋立てた。これらによって湖岸線は縮小され、コンクリート壁による人工湖岸化が進んだ。人工島は流域下水道処理の矢橋帰帆島だけがつくられた。



米原町筑摩付近の湖周道路

- (5) レジャー関連施設の展開 : 水泳場は大正14年柳ヶ崎に開かれたのが初めて、以後近江舞子ほか各地に増加し、現在は15におよぶ。さらに戦後は休養地が各河川の河口デルタに発達し、リゾート地景観を現出した。ホテルは昭和9年柳ヶ崎の琵琶湖ホテルに始まり、特に昭和30年代後半から増加し、琵琶湖大橋付近や大津、彦根、長浜に立体的景観を示している。また、南湖周辺では遊園地や水上スポーツ関連施設がめだつに至った。
- (6) 地域開発、琵琶湖総合開発による整備 : 最後に意図的な湖岸の変化が地域開発によって導入されている。戦後湖周道路計画の一環として長浜―彦根間、彦根―柳川間の自動車道路が整備され、琵琶湖大橋(昭39)、新賤ヶ岳トンネル(昭43)、奥びわ湖パークウェイ(昭46)、近江大橋(昭49)が新設された。さらに琵琶湖総合開発によって、湖岸堤、湖周道路、湖岸園地、休憩所、内湖の遊園地化、各港湾の整備が進んだ。そのため、湖岸の人工化が一層顕著となったが、他方では親水性が増加した。

### <湖岸景観の保全>

以上のように湖岸の景観は明治以降かなり変わったが、今後さらに湖岸堤の完成などによって変容すると見られる。県ではふるさと滋賀の風景を守り育てる条例を設け(昭59)、琵琶湖景観形成地域を指定して適切な指導助言を行うと共に、自然保護地の公有化を進めている。これらに付け加えて各湖岸の自然特性と利用の可能性を検討し、今後の観光レジャーの多様化傾向から、鑑賞空間、参加空間、行動空間の基準もいれて今後の変化を予測し、各湖岸のあるべき景観像を求めて保全と育成をはかることが必要であろう。

琵琶湖の湖岸景観は近江のアイデンティティにつながる。それだけに自然と歴史を包み込んだ美し

い調和の取れた全体像を保つことが大切である。

## びわ湖の風景

京都芸術短期大学 武居 二郎

よく風景とか景観という言葉を使いますが、これは景色といっても同じことのようにです。ただ風景という場合は、風の字に人の習慣といった意味があるので、自然と人の関わりから生み出されたものという意味合いが出てくるように思えます。人が生きてゆくために必要な状況—環境も自然と人の関わりから生み出されるものですから、風景は環境の視覚的一断面だというのが、いちばん適切な解釈でしょう。

ですから風景といっても目に見えるものについてだけ語ってはいけません。なぜそういう風景が生まれ出たかということ、環境という本質的なところから考えなければいけないのです。人の長い歴史の中で自然との関わり—環境はさまざまに揺れ動いて来て、一定の状況に固定されるということはありませんでした。自然と人の関わりには何かのバランスがあり、その枠を越えさせなければ多少の変動は許されます。環境は自然と人の動的均衡状態であるという言い方はたいへん適切で、環境の視覚的一断面である風景も動的均衡状態にあります。

風景が良いか悪いかを判定するのに客観的基準はありません。私達が絵を見るときにひとりひとりの感性で評価するのと同じだからです。ですから良い風景を保全し創り出して行くには豊かで鋭敏かつしなやかな感性と、高い見識が求められるのです。またそれは環境にかかわることですから、人間の生存本能による判断も必要でしょう。あ、これはおかしいな、これで良いのかな、といった直感的な警戒心も大切です。



奥びわ湖の風景

風景は何十年、何百年の間、人の目に触れてきて、人々の感性に快いものとして受け入れられてきたから存在し続けることができたのです。風景にはそういう伝統性、保守性といった所のあることは確かです。もうひとつ、風景は自然と人のいとなみから生まれ出るものですから、どうしても自然を尊重することになります。完全な人工のかたち—街の風景も自然の割合が非常に低くなった状況と考えればよいのです。琵琶湖の風景のように自然の割合の高い場合は、風景の良否についての判断は自然寄りにならざるを得ません。

先頃近江八景の優れた展覧会が滋賀県立近代美術館で開かれていましたが、近江八景が湖南に集中していることは人の気配の濃密さと風景の関わりを語るものですし、現在殆ど見られなくなったことは環境や人の感性の遷移を物語っています。

人が自然の中の生きものであるという事実、琵琶湖が自然そのものであるということからして、人も琵琶湖もできるだけ真正な自然に近寄った方に環境を求めるべきだと考えるのです。私達の子孫が安全に生きのびてゆくためには、自然により近い環境をよいものと判定し、そういう風景を好ましいと考えるのが正しいと思います。

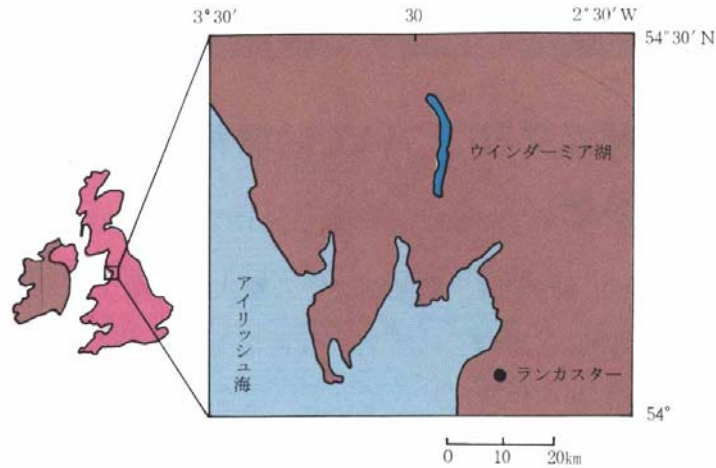
琵琶湖の風景の特徴は何といっても大きなひろがりです。どこから湖面を見わたしても殆ど対岸は見えず、のびやかな水面は汚いものを見えなくしています。そして注意しなければならないのは、見えなからといって細かい風景につながることを知ると同時に、大きな風景を粗末にはいけないことです。細かい注意が大きな風景をどう取り扱うかはいつも考えていなければなりません。

それはたぶん琵琶湖の周辺の自然や人のいとなみに深い関係があります。山々、河川、田園といった風景を大切にすることが琵琶湖を守ることになるでしょう。

最近リゾート施設や住宅、道路、工場などが次々に建設されて、風景は変貌してゆかざるを得ません。私達はそれらが風景—環境にどのような影響を与えるのか、人間が利便や快楽を求めるあまり大切なものを失うことが無いように注意していなければならないでしょう。

## 世界の湖(20) ウインダーミア湖(イギリス)

ロンドンから車で約5時間ほどのイングランド北西部に森林や湖沼の美しさで有名な湖水地方国立公園があります。湖水地方は、最高峰のスコーフエルパイクを中心に山々がつらなり、洪積世氷河の侵食によってできたリボン状の細長い湖が多く点在しています。イングランド最大の湖、ウインダーミア湖はそのような湖の一つです。この湖は南北に細長く、最も深い所は60mあります。このため、表面積は琵琶湖の1/4程度ですが、水量は1.5倍になります。水温は最高でも20℃以下ですが、冬季でも凍結することはありません。



湖の中央部にはフェリーが運航されています。その西湖岸の船着場近くに、シヨウシャナオ城があります。この建物を、1930年設立されたウインダーミア淡水生物学研究所が研究施設として利用して今日にいたっています。研究員90名を擁し、ヨーロッパの陸水学の一大メッカとなっています。

周囲は広葉樹林や羊の放牧が行われている草地が多い丘陵地です。とくに晴れた日は緑があざやかでまことにすばらしいながめです。観光地ですので、ヨットやボートの船着場や釣り場などの湖岸利用がされています。しかしながら、木々を十分に配して自然状態を保つように配慮されており、そのゆとりと落ち着きを感じさせる空間設計はおおいに参考にすることがあります。北から東の湖岸にかけてアンブルサイドやウインダーミアの町があります。これらの町には17から18世紀の町並が残っています。観光の中心地であるために歴史ある町並が破壊される危険がつけねにあります。これらを保護するためのたてがいろいろと考慮されている点もさすがイギリスと感じさせるものがあります。



集水域には詩人ワーズワースが湖畔に住みその美しさを賛美したグラスミアやリダル・ウォーター、エストウェイト・ウォーターなどの湖沼があります。この地方に降る雨のpHは平均4.4ですが、これらの湖沼の水は中性付近です。そのため、ウインダーミア湖の水は、1928年以来7.0前後でほとんど変化していません。現在のところ中栄養的ですが、排水や肥料などの流入で富栄養化してきています。もちろんヨットにはトイレを設置することが法的に義務づけられています。

(中島 拓男)